別世界旅行

日本経済新聞出版社 編

幾多の文化が花開いた、大河メコンの流域。悠久の歴史と、壮大なスケールの自然が今も残る。最新鋭のリバークルーズ船「アクア・メコン」に乗船し、目指すは世界遺産アンコール。

TRIP
11

Mekong River
Cambodia

カンボジア
メコン河流域

ベルーのアマゾン川で5つ星リバークルーズを展開してきた、クルーズ会社「アクア・エクスペディションズ」が、新たな航路として選んだのがアジアの大河「メコン河」だ。

カンボジアのメコン河流域は、日本からは近くて遠いような、どこかなじみの薄い旅先だが、それはこれまで大きな開発が入っていなかったからだ。訪れてみると、驚くほどのどかな田園風景が広がり、昔ながらの生活を営む人々を垣間見ることができる。また、メコン河は周辺の森林地帯を含め、アジア随一の豊かで複雑な生態系があることでも知られている。そして旅の締めくくりは、世界の人々を魅了してやまないアンコール遺跡へ。こだわりの宿に滞在することができ、至極の体験が待っている。

Stream up the great river

大河メコンを遡上するリバークルーズ

#1 開発が進むカンボジアの首都、プノンペンへ

旅の基点はカンボジアの首都プノンペン。長い内戦を経た今、復興がめざましく、アジアでも有数の成長を遂げているエネルギーにあふれた街だ。新しい建物がどんどん建設され、日々街の様子が変化している。

この街に流れているのがアジア屈指の大河メコン河。チベット高原に源流を発し、いくつかの国を通り、ベトナムから海に流れ出る。乗船するアクア・メコンは、このメコン河を遡上する。夜の出港となるので、街を散策したら夕方には桟橋に到着したい。桟橋に近づくと、プノンペンの街の雰囲気と打って変わって、モダンな装いの船「アクア・メコン」が出迎えてくれる。

#2

寝ている間、メコン河の北上は静かに始まっている

出航は日が暮れたあと、もろもろの船の準備が整ってから。時として深夜になることもあるため、朝起きたら、周囲の風景がメコン河の田園地帯に一変！というかたちでクルーズライフは始まる。プノンペンのコンクリートジャングルを抜け出したら、田園地帯には気持ちの良い風が吹いていることに気づく。ヤシの木が田んぼの周辺から高く伸び、その間から集落や寺院が見え隠れする。のどかな風景は、日本の昔の景色を思い出すかもしれない。川べりで遊んでいた子どもたちが船に気づき元気よく手を振ってくれると、微笑ましい気持ちになる。

#3 モダンで洗練された客船は、快適に動くブティックホテル

穏やかな風景の中、船は北上を続ける。船内に一歩足を踏み入れると、都会にたたずむブティックホテルのような洗練された設備と雰囲気に囲まれる。上層階のオブザベーションデッキにはラウンジ、バー、ゲームルーム、映画室が揃う。床から壁までが全面ガラスの冷房の効いた室内から、周辺の景色を快適に楽しめる。また、外にはサンデッキと小さなプールもあるので、開放感も存分に味わえる。プライベート空間も充実しており、客室はリバークルーズにしては破格の1室30平方メートルの広さを誇り、大きく開いた窓はベッドから外の景色を一望できる。さらにプライベートなオープンスペースを求める人のために、バルコニーを備えた部屋が8室用意されている。現地の新鮮な食材を使った東南アジアの伝統料理と、現代の先進的なグルメが融合した食事も、毎日の楽しみだ。

#4 毎日用意されている当地ならではの極上アクティビティ

今回のアクア・メコンのルートは途中までメコン河を北上し、中盤以降は東南アジア最大のトンレサップ湖を巡る。クルーズ中は、毎日1～2回のアクティビティが用意されているので飽きることはない。アクア・メコンから「スキフ」と呼ばれる小型船に乗り換えて、銀細工職人の村や、壺作りの村といった特徴のある集落や自然保護区などを巡るツアーがある。
その中でもハイライトといえば3日目に訪れる2つの湖上の村だ。まず湖上の都会ともいえるチュノックトゥルー村は、水の上に4万人とも5万人ともいわれる人たちが暮らす。訪れるまで想像もできない圧巻の賑わいが湖上で営まれていて、その姿には衝撃を隠せないだろう。対照的なのが、2つ目のモアットクラ村。アクア社がクルーズを開発しているときに「発見」したといわれている村で、往来ある水路から外れて「なぜここに」というほど辺境の地にある。自然に囲まれた何ともどかな水上の暮らしに触れると、自然と調和のとれた人々の営みの美しさに心が奪われるだろう。

#5 旅の後半は下船して、マイペースにアンコール遺跡を堪能する

アンコール遺跡観光の拠点となるシェムリアップ近郊の港に着岸すると、船とはお別れとなる。ここからは陸路を使ってシェムリアップに向かい、アンコール遺跡を巡る。9世紀から15世紀まで栄えたクメール王朝によって、100以上の施設が建立されたこの地域。最も有名なのはやはり巨大な回廊が幾層にも連なるアンコールワットだ。他にも印象的な仏像の顔が壁面に描かれたアンコールトム、木が遺跡を呑み込もうとしているかのようなタ・プローム、また「東洋のモナリザ」とも称される美しい女性が描かれたバンテアスレイも見逃せない。この遺跡群はヒンドゥー教から仏教に移行した歴史を持つことが特徴的。仏教寺院なのにどこか違う雰囲気を感じとるかもしれない。急いで巡るよりは、1つひとつの遺跡をゆっくり堪能するのが、何より贅沢な旅だといえよう。

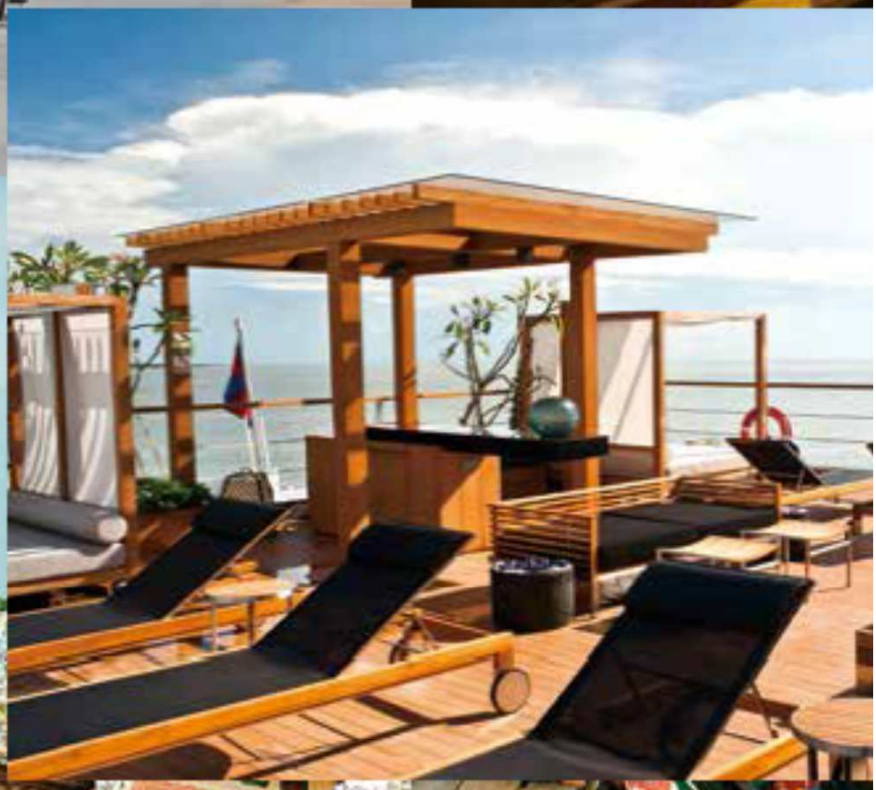
#6 アンコール遺跡観光の拠点は市内最高峰のリゾート「アマンサラ」へ

アンコール遺跡を巡るには1日では不可能。宿泊するならカンボジア国王の元別荘を改装した「アマンサラ」がおすすめだ。客室は市内でも有数の広さを誇り、またパブリックエリアも静かで、落ち着きがある。

各部屋に専属の3輪バイクが配置されていて、宿泊客は遺跡の観光や近郊への移動のために自由に使うことができる。都市化が進むシェムリアップは、広い範囲で見どころが点在しているため、移動手段を確保できることはうれしい。他にもアマンサラでは無数のアクティビティが用意されている。大切なのはまずは自分で何をやりたいか考えること。あとはそれをスタッフに伝えれば、エレガントに全力で応えてくれるだろう。滞在するアマンサラは、わずか 24 室と日本の高級旅館のようなこぢんまりとしたサイズで、きめ細やかなサービスに定評がある。

アクア・メコン、アマンサラ……共通することは一歩中に入ると完璧な癒しが待っていること。わが家にいながら東南アジアを巡る、そんな気分にさせてくれる。

美しい田園風景、活気にあふれた賑やかな街中を探索した後は船内のゆったりとしたパブリックエリアでノンビリしよう。船のどこからでも美しい風景が楽しめる。



40

TRAVEL INFORMATION

MEKONG RIVER CAMBODIA

旅の予算 | BUDGET　総予算 60 万円〜

※5泊7日／成田発着の航空券、メコンクルーズ、ホテル1部屋（2名利用）の料金（一部食費除く）、1名分の総予算

- 成田〜プノンペン / シェムリアップ往復航空券
- アクア・メコン3泊クルーズ
- アマンサラ2泊　が含まれた金額

旅のシーズン | BEST SEASON

アクア・メコンがプノンペン〜シェムリアップの区間を運行するのは、十分な水位が見込まれる毎年 8 月中旬から 11 月となる。それ以外の期間は水深が浅く、シェムリアップまでは航行できない。5月下旬から10 月下旬が雨季となるが、一日中降るというよりは午後に 30 分〜1時間まとまって降るような天候となる。

行き方 | HOW TO GET THERE

プノンペン、シェムリアップともに、一部のチャーター便を除けば、日本から直行便は設定されていない。アジアのどこかの街での乗り継ぎが必要になる。しかし、往路の到着地と復路の出発地が異なっても料金が変わらないオープンジョー方式で、行きはプノンペンへ、帰りはシェムリアップから日本へ帰国できる。

問い合わせ先 | CONTACT

最寄りの旅行会社でパッケージを組んでもらうことが可能だが、フライト、クルーズ、宿とそれぞれに自分で手配することも可能。

アクア・メコン　アクア・エクスペディションズ日本地区販売総代理店　ICM

TEL：03-5405-9213　http://icmjapan.co.jp/

アマン公式 URL　www.aman.com　日本語対応フリーダイヤル　TEL：0120-951-125（平日 10:30 〜 19:0）

宿泊 | ACCOMMODATION

リバークルーズ船　Aqua Mekong

全室から、床・壁・天井のガラス越しにメコンの風景が楽しめる（一部バルコニー）。リバークルーズ船としては広々とした客室で、パブリックエリアも充実している。料金にドリンクも含まれているのでラウンジでのひと時も楽しみたい。

シェムリアップのホテル　Amansara

市街地からアンコール遺跡に向かう道路に面しているが、一歩中に入ると街の喧噪は聞こえない落ち着いた雰囲気に包まれる。朝食と夕食が含まれたパッケージになっており、宿泊客の好みに応じた極上の料理が味わえる。

旅の見どころ | MUST NOT MISS

アクア・メコンで味わうメコン河の原風景。観光客がほとんど訪れない場所ばかりを巡るのが楽しみだ。逆にアンコール遺跡は、世界屈指の人気観光地。アマンサラの専用3輪車で、マイペースに遺跡を巡ろう。

この旅の絶品 | BEST GOURMET

カンボジア料理は周辺諸国に比べパクチーや唐辛子を使った刺激的な食べ物よりマイルドなのが特徴で日本人の口に合う。現地食材を生かした料理も外せないが、シェフの創意工夫が織りなすフュージョン料理も味わおう。

スケジュール例 | TRAVEL SCHEDULE

1日目	成田発、アジアのハブ都市で乗り継ぎ　プノンペンへ 【機中泊】
	プノンペン着　着後、タクシーでアクア・メコンへ 【アクア・メコン泊】
3〜4日目	終日アクア・メコンクルーズ 【アクア・メコン泊】
5日目	午前にチェックアウト　バンでシェムリアップへ　着後、専用車でホテルへ
	アンコール遺跡観光 【アマンサラ泊】
6日目	アンコール観光
	敷地内でリラックス 【アマンサラ泊】
7日目	早朝シェムリアップ発、アジアのハブ都市で乗り継ぎ　成田へ
	夕方、成田着

周辺情報 | OTHER NEAR BY DISTINATIONS

【シンガポール】世界有数のハブ空港を有し、マリーナベイサンズホテルやカジノといった再開発が進む街。1〜2泊、気軽に滞在して観光や買い物をするのも楽しい。

【シアヌークビル】近年開発が進むカンボジアのビーチリゾート。世界的に知名度はあまり高くないが、美しい白砂のビーチが無数に広がる。

【ホーチミン】最も効率の良い乗り継ぎができるのがホーチミン。カンボジアと日本を最短で結ぶルートであり、ショッピング、食事、街中散策など魅力が凝縮した街。